

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年2月6日（木）

2 確認箇所

定検機材倉庫B（図1）

3 確認項目

横置きタンク解体作業場集じん機からの出火状況の確認

4 確認結果の概要

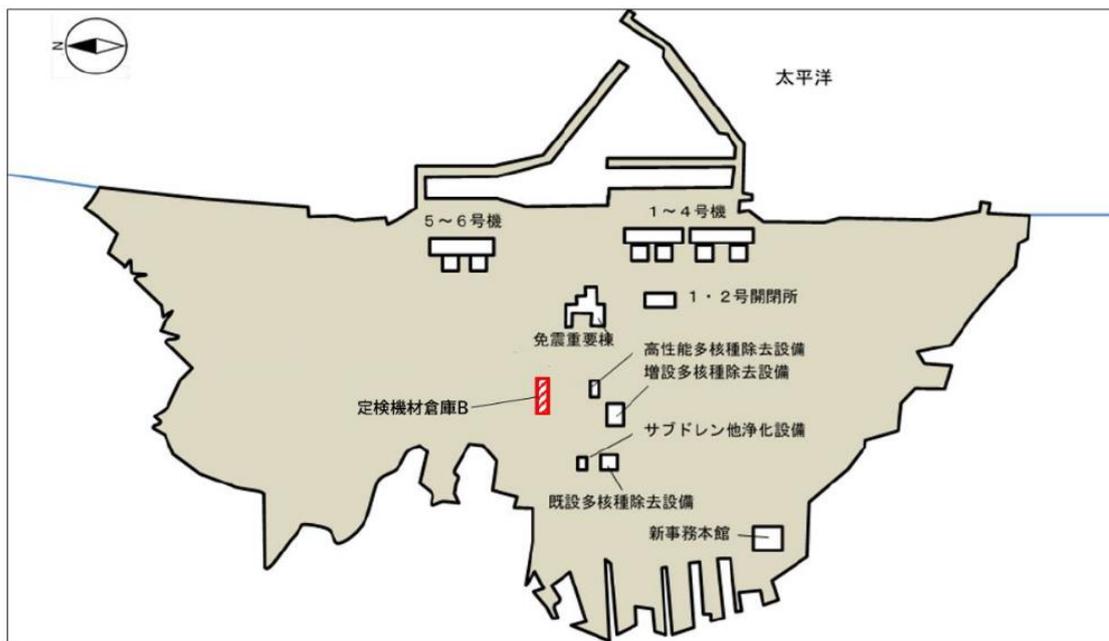
横置きタンク（以下「ブルータンク」という。）は、震災直後に建屋内滞留水の貯留容器として使用されていた。その後、縦型溶接タンクへ置き換わったため、ブルータンクは福島第一原子力発電所構内に仮置きされている。

東京電力は、敷地の有効利用の観点から、仮置きされている全367基のブルータンクを今年度から除染・解体する計画としており、昨年11月から定検機材倉庫B内において未使用ブルータンクを用いたモックアップ試験を開始している。しかし、令和7年2月3日にモックアップ試験中に火災が発生したことから、集じん機からの出火の状況について確認した。（前回確認：[令和7年2月4日](#)）

- ・ 確認時、全ての設備は停止しており、作業員は不在であった。また、火災が発生した定検機材倉庫B内は、マスクを装着していても焦げた匂いが確認できた。（写真1）
- ・ 出火した集じん機に接続しているダクトには、ブルータンク切断時に生じた切断くずが大量に詰まっていた。（写真2）
- ・ 集じん機に接続しているダクト付近には、フレキシブルホースの燃えがらがあり、表面には消火剤が付着していた。（写真3）
- ・ 集じん機に接続されたエアフィルタは、配管が外れ内部には燃えがらが散乱していた。また、HEPAフィルタ^{*}は変形し損傷していた。（写真4）

※ HEPA フィルタ

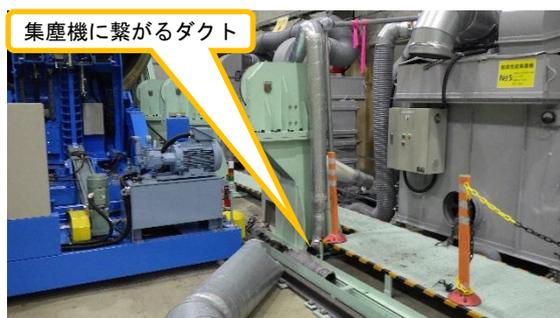
空気中の微粒子を捕集する高性能なエアフィルター。花粉やほこり、ウイルスなどを捕集でき、クリーンルームや空気清浄機、掃除機などに使用されている。1Fでは、放射性物質を含むダストの除去に用いられている。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1) ブルータンク切断状況



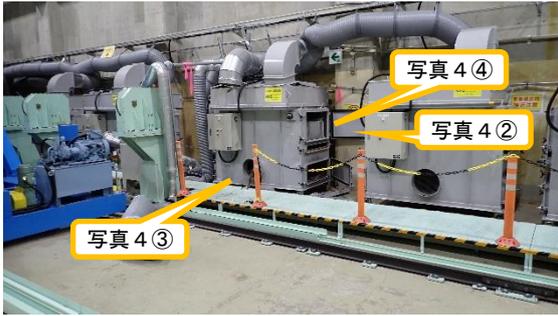
(写真2①) 出火した集じん機のダクト



(写真2②) 写真2①拡大



(写真3) フレキシブルホースの燃えがら



(写真 4 ①) 集じん機に接続する排気設備



(写真 4 ②) 排気設備側面



(写真 4 ③) 配管接続口



(写真 4 ④) 変形した HEPA フィルタ

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。